

県民政策審議会
第5回参画・協働推進部会 議事要旨

日時 平成19年9月7日(金) 16:50~18:10

場所 兵庫県民会館 902

出席者委員：鳥越会長、小西部会長、山下副部会長、北野委員、阪井委員、野崎委員、速水委員

県 大西県民政策部長、石井地域協働局長、鬼頭参画協働課長、
沖本課長補佐兼参画協働システム係長

議事 ・「平成18年度 参画と協働関連施策の年次報告」(案)
・その他

内容

1 平成18年度 参画と協働関連施策の年次報告(案)について

(1) 評価の導入について

- ・年次報告作成の目的は、参画と協働の現状をチェック・評価することである。今回は4回目の作成でもあり、評価結果について記載すべきではないか。
- ・参画と協働を進めようとする県民、市民の思いが高まりつつあり、地域では、成果も出てきている。現時点で、どのくらい浸透しているかを調べてみる必要があるのではないか。
- ・事業そのものを評価をするのではなく、参画と協働の取り組みについての評価を考えていけばよい。
- ・地域づくり活動応援(パワーアップ)事業のように、一定期間実施している事業については、協働という視点から評価出来るのではないか。
- ・平成17年度に実施した施策の効果の総合的な検証により、一定の評価を実施しており、現時点でシビアな評価をする時期が来ているかどうか疑問である。
- ・参画・協働推進部会は、独立とした評価機関という役割があるため、その意図からも、評価を取り入れるべきである。
- ・事業を実施する各部局に対して評価結果を示すことは、今後の県の施策展開について効果的だと考えられるが、網羅的に評価をすることは難しい。また、県民に評価結果を分かりやすく説明することも難しい。
- ・評価方法については、当部会で時間をかけて議論する必要がある。

(2) 平成18年度年次報告への対応について

- ・時間的な制約があるので、今回は、この案で完成をさせていけばいいのではないか。評価方法については、今後、時間をかけて検討をしていく必要がある。
- ・今回の年次報告については、例えば、新聞記事などの外部の評価でも貼り付けたらよいのではないか。
- ・今すぐに評価を導入することは難しい。過渡的な方法であって構わないので、今回は、外部の評価や市町の意見の掲載からでも取り入れていくべきである。
- ・市町に対して実施したアンケートで寄せられた意見、指摘を要約した形で追加掲載する。

(3)市町における参画と協働の取り組み状況について

- ・市町の取り組み状況を掲載することは、年次報告の資料としての価値を高める。
- ・市町の取り組みについては、市と市民が考えていくことが基本であるので、県が評価するような印象を与える書き方ではなく、淡々と事実を書く方がよい。

(4)年次報告「資料編」について

- ・県民が利用しようとするには、資料編はボリュームがあり、丁寧すぎる。見やすくするための工夫が欲しい。
- ・資料編は、主観的な評価を入れず、純粋な記録として何年も蓄積していくことに意義があるし、その方が利用しやすい。
- ・見たいところがすぐ探し出せるように、目次等に工夫をする。

2 今後の参画と協働の推進について

(1)普及啓発について

- ・県民局等で開催しているシンポジウムなどの参加者は、限られた人になってしまう傾向がある。同じような意見を出し合った人たちが、地域で連携し、その輪を広げていけるような方法を考えなければならない。

(2)市町との連携について

- ・市町と連携して普及啓発に取り組んでいくことが大切である。また、参画・協働の裾野を広げていくためには、小さな市町では力不足なところがあるため、県が黒子となりバックアップをしていくことも必要である。
- ・「参画と協働」の言い方、謳い方が自治体によって異なるため、県民や市民が混乱している。県民、市民にとっては、県への参画・協働も市へのそれも基本的には同じではないか。
- ・「参画と協働」の言い方、理念も、それぞれの自治体の考えがあり、同じにする必要はない。それぞれの思いに沿って、参画と協働を進めていけばよい。
- ・県施策の充実のためには、立案の段階で市町の意見の反映に努めるとともに、施策実施段階での連携についてもイメージをする必要がある。

(3)施策の立案への参画について

- ・協働に重きがおかれているが、県の政策決定に県民意見を反映させ、県施策を充実させていく方法を考えていかなければならない。
- ・「NPO と行政の協働会議」で行っているような施策提言の取り組みを、広げていくべきである。

(4)評価方法の検討について

- ・前ページ「1(1)評価の導入について」を参照